

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23651254

研究課題名（和文） 北欧諸国における情報の収集・管理・公開に関する多角的研究

研究課題名（英文） Multi-perspective Study on Gathering, Management and Disclosure of Informations in Nordic Countries.

研究代表者

清水 育男 (SHIMIZU IKUO)

大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号：40056338

研究成果の概要（和文）：本研究は、現在の北欧諸国における言語政策・社会政策・文化政策の各々の観点から、情報資源の収集・管理・公開の方法への多角的な検証を行った。その結果、公的機関により管理されている情報資源が、「市民」としての能動的行動を担保する基盤として重視されており、それゆえにアクセスしやすい公開性を原則とする北欧諸国における情報資源活用の実践的側面を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed the process and method of collection, management and exhibition of information resources in Nordic countries of today, with multilateral way from each point of view of language policy, social policy and cultural policy. As a result, we made clear that information resources, which were managed by public authorities of Denmark or Sweden, were placed as the important foundation to secure active behavior as the "citizen", therefore utilization of information resources in Nordic countries retained the practical aspect according to the principle of open-access.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：国際情報交流、スウェーデン、デンマーク、北ヨーロッパ、情報収集、情報管理、情報公開

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の地域研究においては、近年、グローバルに広がる研究者ネットワークを基盤としながら、世界の諸地域を理解する上で重要なそれら地域に蓄積される知識を情報資源として集積し、的確な地域理解の基盤として情報資源を体系化するという課題が議論されている。

(2) こうした課題を背景としながら、本研究は、高負担・高福祉に特徴付けられた北欧型福祉国家モデルが動揺した現在にあっても、例えば、福祉多元主義や市民のパートナ

シップなど、市民の自発的な社会参画による共治のあり方に高い関心が集まっている北欧諸国を対象として、情報資源の集積と体系化が現在の北欧諸国の社会と文化にどのような影響を果たしているかを明らかにすべく企画された。

2. 研究の目的

本研究は、現代北欧諸国において実現されている知の平等と共有の背景にある情報の集積・管理・公開の実態を把握することが、文化的・社会的実態に即した北欧型市民的共治の理解に繋がるとともに、我が国が構築す

べき情報資源の蓄積と公開の将来像の参照事例として資するものになるという目的から構想された。

(1) 具体的には、現地の研究機関・行政機関と連携しながら、現代のスウェーデン、デンマークに築かれている情報の集積・管理・公開システムの実態を明らかにすることを目的に置いた。その際、本研究は、本研究に参画する研究者各々の人文学・社会科学研究の知見を融合させながら、情報の集積・管理・公開の機能という視点から北欧諸国の市民的共治の文化的・社会的特性を明らかにしようとした。

(2) 現在の北欧諸国における情報の集積・管理・公開の実態が日本ではほとんど知られていないため、本研究に関わる研究者が、各々の専門分野において、北欧諸国における情報組織の体系や活動実態を明らかにする過程で実際に活用した図書館・文書館の情報も蓄積し、これを日本の学界と社会に対して公開することも本研究の目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、北欧諸国において市民的共治の基盤として築かれた情報資源の共有化の実態を、人文学的観点と社会科学的観点を融合しながら分析するために、スウェーデン、デンマークの学界と交流実績のある現代北欧社会を専門とする社会科学の研究者に言語学者、歴史学者、文学研究者を結集した共同研究体制で臨んだ。

(1) 従来の日本における北欧研究は、各々の研究ディシプリンによって知見が細分化され、北欧に独特な社会的・文化的特性を総合的に提示できていない問題がある。そのため本研究は、北欧の社会的・文化的基盤を担う「言語知」への共通の関心から、言語学・歴史学・文学・社会政策学などの研究手法を総合させることで、北欧諸国に独特な情報資源の共有化を総合的に分析する方法をとった。これは、情報資源のあり方そのものが「言語知」の集積であり、それに肉薄するには諸研究分野の学知を総合させる必要があるとの見解によるものである。

(2) 本研究は、現代北欧に築かれた市民的共治の基盤としての情報資源の共有のあり方を、北欧に独特な自然環境や文化環境のなかで育まれた人間による経験の蓄積のひとつとして理解したことからも、人文学的観点を社会科学的観点に総合させ、北欧という地域の政治・社会・文化の基盤に対する理解を深化させる研究方法をとった。

(3) また、本研究に関わる研究者の専門に応じた情報資源の共有化の実態に関する調査のなかで、自らの研究過程で実際に活用した図書館・文書館などの公開する情報データベースに関する情報を活字化して日本に公開するとともに、さらには現地の研究者を日本に招聘して情報資源の共有化をめぐるワークショップを随時開催することで、現在の日本社会に明快な形で現在の北欧諸国における情報資源の共有化の実態を伝達することも試みた。

4. 研究成果

本研究は、現在の北欧諸国における言語政策・社会政策・文化政策の各々の観点から、情報資源の収集・管理・公開の方法への多角的な検証を行い、公的機関により管理されている情報資源が単に一部研究者の活用のみを対象としたものではなく、「市民」としての能動的行動を担保する基盤として重視されており、それゆえにアクセスしやすい公開性を原則とした北欧諸国における情報資源活用の実践的側面を明らかにした。

(1) 本研究は、市民共治の基盤として、言語政策・社会政策・文化政策を基礎づける情報共有システムという共通項を設定することで、言語学・歴史学・社会政策学などの異なる研究分野を総合した結果、現代北欧諸国の文化的・社会的特性を多元的に分析することを可能にした。

(2) デンマークやスウェーデンで言語政策・社会政策・文化政策に詳しい現地研究者と直接交流することで、英語やドイツ語などに重訳された北欧諸国の情報だけではなく、デンマーク語やスウェーデン語による原資料を基に、アメリカ型の社会経営手法に対するオルタナティブとして注目を集めてきた北欧における市民的共治の情報資源の共有化の実態を明らかにした。

(3) 本研究は、これらの成果を研究期間中に開催された研究会や、研究誌「IDUN-北欧研究-」上で公開することで、情報の集積と公開を通じて世界の諸地域研究の橋渡し役が期待される日本の地域研究の将来に対し、参照事例を提供した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

① Thomas Breck Pedersen, "SAAS 2012. Skandinavistik: status, formaal og perspektiver", *IDUN-Journal of Nordic*

Studies-, 査読無, vol. 20, 2013, ss. 65-70.

②田辺欧, 「北欧文学に関するインターネット検索について」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 71-84頁.

③大辺理恵, 「Dansk Sprogn æ vn (デンマーク国語審議会・研究所)の活動について— Dansk Sprogn æ vn 研究員 Anne Kj æ rgaard 氏の講演をもとに」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 85-98頁.

④新谷俊裕, 「デンマーク語・文学協会 (DSL) とコペンハーゲン大学創立 400 周年記念デンマーク語協会 (UjDS) について」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 99-118頁.

⑤石黒暢, 「デンマークの電子政府戦略—行政の効率化とサービス向上の試み—」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 119-134頁.

⑥ Anna Helga Hannesdottir, "Svensk lexikografi, ordböcker och Internet", *IDUN-Journal of Nordic Studies-*, 査読無, vol. 20, 2013, ss. 135-154.

⑦Bo Ralph, "Språkhistorien och Svenska Akademiens språkarbete", *IDUN-Journal of Nordic Studies-*, 査読無, vol. 20, 2013, ss. 155-180.

⑧清水育男, 「スウェーデン語の情報が得られる電子媒体—辞書を中心に—」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 181-198頁.

⑨高橋美恵子, 「スウェーデンにおける情報収集・公開システム—社会研究のための情報活用に関する一考察—」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 199-216頁.

⑩古谷大輔, 「文化と社会の保存と管理—スウェーデンにおける文書保管の歴史と構造—」, 『IDUN-北欧研究-』, 査読無, 20号, 2013年, 217-230頁.

[学会発表] (計8件)

①マリー・クローンクヴィスト (ルンド大学コミュニケーション・メディア学部准教授), 「20世紀北欧におけるメディア」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2013年3月27日, 千里中央ライフサイエンスセンター (大阪府).

②ステーファン・エークルーヴ・アミレル

(ルンド大学歴史学部研究員), 「スウェーデンの歴史学—21世紀への挑戦」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2013年3月19日, 千里中央ライフサイエンスセンター (大阪府).

③平林孝弘 (関西学院大学神学研究科教授), 「キルケゴール新版全集の特徴と意義について:新しい研究の可能性をめざして」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2013年1月8日, 大阪大学 (大阪府).

④エミーリア・フォッシュェール (エルスタ・シュンダール大学准教授), 「スウェーデンの高齢者—社会福祉の展望」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2012年10月17日, 大阪大学 (大阪府).

⑤アンナ・ハンズドットイル (ユーテボリ大学スウェーデン語学科講師) 「ISLEX—ネット上のアイスランド語・スカンディナヴィア語辞書」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2011年11月29日, 大阪大学 (大阪府).

⑥ボー・ラルフ (スウェーデン・アカデミー会員, ユーテボリ大学スウェーデン語学科教授), 「スウェーデン・アカデミーによる言語資料収集・作業方法」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2011年11月29日, 大阪大学 (大阪府).

⑦ボー・ラルフ (スウェーデン・アカデミー会員, ユーテボリ大学教授), 「新しいスウェーデン語史」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2011年11月29日, 大阪大学 (大阪府).

⑧アネ・ケアゴー (デンマーク国語審議会・研究所研究員), 「デンマーク国語審議会・研究所の歴史とその活動」, 「北欧諸国における情報の収集・管理・公開」研究会, 2011年8月2日, 大阪大学 (大阪府).

[その他]

ホームページ等

<http://nordiskforskning.labos.ac>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 育男 (SHIMIZU IKUO)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号: 40056338

(2) 研究分担者

新谷 俊裕 (SHINTANI TOSHIHIRO)

大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号：40187563

田辺 欧 (TANABE UTA)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号：60243276

高橋 美恵子 (TAKAHASHI MIEKO)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号：90324871

石黒 暢 (ISHIGURO NOBU)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：20273740

(3)連携研究者

古谷 大輔 (FURUYA DAISUKE)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：30335400